

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成 16 年 10 月 7 日 (2004.10.7)

【公開番号】特開 2001-118741 (P2001-118741A)

【公開日】平成 13 年 4 月 27 日 (2001.4.27)

【出願番号】特願 平 11-297603

【国際特許分類第 7 版】

H 0 1 F 41/06

F 0 2 P 15/00

H 0 1 F 38/12

【F I】

H 0 1 F 41/06 A

F 0 2 P 15/00 3 0 3 B

H 0 1 F 31/00 5 0 1 C

H 0 1 F 31/00 5 0 1 Q

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 9 月 19 日 (2003.9.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】点火コイル

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ボビン上に線材がコイルの軸線に対して斜め巻きされた 2 次コイルを備えた点火コイルにおいて、

該 2 次コイルは、該ボビン上の点火コイルがエンジンのプラグホール内に挿入された状態でプラグに近くなる側を線材の巻き始めとし、往路巻きで所定数巻き進められ、該往路巻きよりも少ない巻数の復路巻きで巻き戻され、往路巻きと復路巻きの巻き数を増加させたコイルであることを特徴とする点火コイル。

【請求項 2】

請求項 1 において、

該ボビン上の点火コイルがエンジンのプラグホール内に挿入された状態でプラグに近くなる側における巻線端面の位置が、傾斜角を形成していることを特徴とする点火コイル。

【請求項 3】

請求項 1 において、

該ボビン上の点火コイルがエンジンのプラグホール内に挿入された状態でプラグに遠くなる側における巻線端面の位置が、傾斜角を形成していることを特徴とする点火コイル。

【請求項 4】

請求項 3 において、

前記傾斜角は 6 度未満であることを特徴とする点火コイル。

【請求項 5】

ボビン上に線材がコイルの軸線に対して斜め巻きされた２次コイルを備えた点火コイルにおいて、

該ボビンに２次電極を有し、

該２次コイルは、該ボビン上の該２次電極が形成された側を線材の巻き始めとし、往路巻きで所定数巻き進められ、該往路巻きよりも少ない巻数の復路巻きで巻き戻され、往路巻きと復路巻きの巻き数を増加させたコイルであることを特徴とする点火コイル。

【請求項６】

請求項５において、

該ボビン上の該２次電極が形成された側における巻線端面の位置が、傾斜角を形成していることを特徴とする点火コイル。

【請求項７】

請求項５において、

該ボビン上の該２次電極が形成された側の反対側における巻線端面の位置が、傾斜角を形成していることを特徴とする点火コイル。

【請求項８】

請求項７において、

前記傾斜角は６度未満であることを特徴とする点火コイル。

【請求項９】

ボビン上に線材がコイルの軸線に対して斜め巻きされた２次コイルを備えた点火コイルにおいて、

該ボビンは、一方の端部が密封され、他方の端部がオープンになっており、

該２次コイルは、該ボビンの密封された側を線材の巻き始めとし、往路巻きで所定数巻き進められ、該往路巻きよりも少ない巻数の復路巻きで巻き戻され、往路巻きと復路巻きの巻き数を増加させたコイルであることを特徴とする点火コイル。

【請求項１０】

請求項９において、

該ボビン上の該ボビンの密封された側における巻線端面の位置が、傾斜角を形成していることを特徴とする点火コイル。

【請求項１１】

請求項９において、

該ボビン上の該オープンな側における巻線端面の位置が、傾斜角を形成していることを特徴とする点火コイル。

【請求項１２】

請求項１１において、

前記傾斜角は６度未満であることを特徴とする点火コイル。